



▲呼吸器外科部長 内山 美佳

縦隔腫瘍について

縦隔腫瘍とは

縦隔は胸部内で左右の肺、脊椎、胸骨で境界される部位です。そのなかには心臓、大血管、食道、気管、胸腺、リンパ節などが存在しています。縦隔腫瘍とは縦隔に発生した腫瘍で心臓・食道・気管以外にできたものをいいます。

分類、疫学

発生年齢もさまざまで小児から高齢者まで発症し、悪性度も良性からがんまでさまざまです。縦隔はさらに上縦隔、前縦隔、中縦隔、後縦隔に分けられ、それぞれの場

所でできやすい腫瘍があります。

上縦隔には甲状腺腫、前縦隔には、胸腺腫、胸腺がん、奇形腫、胚細胞性腫瘍、中縦隔には気管支原性のう胞、食道のう胞、悪性リンパ腫、後縦隔には神経原性腫瘍などができやすいとされています。発生頻度は胸腺から発生したものが最も多く、そのうち胸腺腫が全体の約4割を占めています。次いで先天性のう胞（水のかたまり）、神経原性腫瘍と続きます。

症状

多くの場合は無症状で、検診や他疾患の検査中に行き始めて発見されます。しかし腫瘍が周りに拡がると、胸痛、肩痛、咳、喘鳴、嘔吐、上半身のむくみ、呼吸困難、嚥下障害などの周囲臓器の圧迫や浸潤による症状がでます。

診断

胸部レントゲン、CT、MRIによる画像検査を行います。胸腔鏡やCTなどを用いて組織を採取することが必要な場合もあります。また血液検査で腫瘍マーカーの測定が診断に役立つこともあります。

治療

腫瘍の種類と病気の拡がりによって治療法や予後は決まりますが、良性、悪性にかかわらず手術が可能であれば切除するのが基本的です。小さいものなら胸腔鏡手術で摘出が可能です。切除できない場合は、放射線治療や抗がん剤治療を合わせた集学的治療が行われます。抗がん剤や放射線治療の効果は腫瘍の種類によって異なり、胚細胞性腫瘍の中の精上皮腫（セミノーマ）などは抗がん剤や放射線治療が非常によく効きます。

胸腺腫は、すべて低悪性腫瘍と考えられ外科的切除の対象となります。その発生母地である胸腺が元来免疫をつかさどる臓器であり（成人になると退化し脂肪組織になります）、重症筋無力症を始めとするさまざまな自己免疫疾患を合併します。そのため、原則的には腫瘍だけを切除するのではなく、発生母地である胸腺組織を含めた広範な切除が必要です。この手術法は拡大胸腺摘除術と呼ばれ、胸骨を縦に割って（胸骨正中切開）手術します。

◆お知らせ

助産師・看護師募集



■嘱託職員

勤務 月々金曜日午前8時30分～午後5時
月給 27万円（一時金なし）

■臨時職員

勤務 月々金曜日午前8時30分～午後4時30分（時間は応相談）
時給 1,500円（一時金なし）

▼対象 助産師、看護師免許取得者

▼人員 各3人程度

▼勤務開始日 12月2日(月)

▼申込み 10月31日(木)（必着）までに、臨時・嘱託いずれかを記入した履歴書（写真貼付）、資格免許証の写しを郵送または直接病院総務課（〒485・8520住所）

不要）

※後日面接あり